

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700256		
法人名	医療法人 丹羽外科		
事業所名	中央グループホーム和		
所在地	岩倉市新柳町1丁目44番地		
自己評価作成日	平成30年10月 9日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374700256-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374700256-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月 7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族様を交えたイベントを職員と計画し、ご利用者様、ご家族様との時間を大切にしています。又ご家族様と職員のコミュニケーションの場ともなっており情報の共有が図れています。ホームには併設されたデイケアがあり、催し物などの行事も参加し顔なじみの方との触れ合いの場も提供できるようにしております。

日常生活においてはご利用者様が自然と家事が行えるように環境作りや声掛けを行っています。その結果、現在はご利用者様が男女問わず皆で力を合わせ積極的に家事を行って下さっています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体の複合施設の3階に位置している。管理者・職員は理念を踏まえた「寄り添う介護」を追求し、利用者の持てる能力の発見に努め、持てる能力を最大限に活かすために、動きやすい環境作りを努めている。職員の提案に「ためてみたら」と管理者は自主性を育て、炊飯器の場所を変えたことで男性の利用者もご飯を付け、炊事に参加している。利用者の持てる能力を見極めた利用者に合わせて言葉をかけ、車いすの利用者もシーツ交換ができ、利用者の自信に繋がっている。

日々の生活の中で管理者・職員は「寄り添っているか」と、お互いが振り返りながら支援をしている。「寄り添う介護」のために家族の意見は元より、必要時には医師・看護師・ケアマネジャー・職員と連携することもある。調査日も笑顔があちこちで見られ、「利用者主体」が貫かれていた。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	要望に全て対応する事は出来てないが、可能な限り寄り添う介護を行うようにしている。	ホーム理念5項目をホーム内に掲示し、理念を踏まえた「寄り添う介護」を追及している。環境を変えることでやる気を引き出したり、やってみて良かったか、検証を日々確認をして支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の催し物に出来る限り参加させて頂いている。その際には声を掛けて下さり、お手伝いをして下さる方も増えていると感じる。	地域行事の「ゴミゼロ」や「いきいきサロン」に積極的に参加している。散歩や買い物等、近隣住人と挨拶を交わし、地域交流を図っている。管理者は、市の認知症「ケアパイザー」として活躍している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や相談に来られた際には認知症ケア等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂戴したご意見は法人内の会議や職員間の話し合いで改善できるように努めている。	行政・地域包括支援センター・地域代表・民生委員・家族・利用者が参加し、年6回開催している。利用者の近況報告に続き、看取り・認知症カフェ等の議題や困難事例についての意見を頂き、サービスに活かしている。	知見者の参加を促し、会議内容の充実を図り、「目標達成計画」の進捗状況の評価を実施し、ホーム運営に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った事や何かあればその都度連絡を取らせて頂きアドバイスを頂いている。	生活保護受給者の利用があり、保護課とは密に連絡を取っている。運営推進会議には行政、地域包括支援センター職員が参加している。介護相談員の受け入れ等により、ホームの状況は市に理解されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また身体拘束廃止等の適正化の為の対策とし会議を定期で実施し全職員が周知できるようにしている。施錠に関しては防犯目的以外は行っていない。	ビルの3階に位置しているが、階段、エレベーター、1階玄関の施錠はない。転倒の危険がある利用者には床センサーがある。スピーチロックにも配慮して、「一人にさせない」をモットーに「待ってもらう場合」には、他の職員の傍に移動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は日々起こらないよう細心の注意を行っている。違和感を感じた場合は職員同士で話し合いをしたり管理者から本人に話を聞いたりと対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体での定期的な勉強会を行っていないが、制度や対応方法などは必要の際にその都度、介護支援専門員から職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様に対し専門用語で話すのではなく、分かりやすい言葉を用いて説明するように心掛けている。又、署名して頂く際に必ず質問の時間を取るようにし、ご納得いただけただけの場合のみ署名と捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新たにアンケートを実施(入居時と今との違いの確認)全職員にミーティングなどを通じて周知し今後活かせるように努めている。外部の方へ表せる機会は設けていない。	職員全員が利用者の状況を把握し、家族面会時には、職員が近況を伝えている。家族アンケートでの満足度は非常に高く、「親身になって」「気遣って頂いている」等の好評が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場環境の整備には力を入れている。要望を言い易い環境作りに務めている。要望があった場合は代表者に話をするようにしている。	ホーム内には自由に意見・提案が言える雰囲気がある。管理者からは、「職員の寄り添う介護に感謝」との言葉があり、良好な職場環境がうかがえる。意見提案には「まずやってみる」、「検証」を繰り返し実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを明確化し「就業規則」や「役割分担及び選任方法」に記載されている。又、全職員が何時でも見られる場所に保管されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を実施し、法人買いの研修にも受ける機会を確保している。また就業中でも指導等を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度は同業者との交流し意見交換できる場を設けている。また電話などで気軽に相談できる環境である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	質問ばかりにならないように、会話の中から聞き出せるよう心掛けている。又、環境等にも配慮させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の前では話しにくい事もあるので、環境等にも気を付けながら聞くようにしている。又要望に対しホームが出来る事、出来ない事をしっかりと説明を行うようにし、可能な限り不安が解消できる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学を含む利用申し込みの段階から状況を確認し、その時々必要な情報を提供している。(他のグループホームの空き状況も確認し紹介なども行っている)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂くように声掛けをしている。又、ご利用者様同士で会話を作れるように環境作りにも取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族様の参加をお願いし、時間を共有して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に戻られたり(外出)、友人に会いたいと話があった時はお連れするなどして、出来る限り対応するようにしている。	家族の関係継続を支援し、家族の協力で墓参、外食や馴染みの場所等に出かけている。利用者の金婚式に、管理者も招待を受けた。階下のデイケアセンターに時々出掛け、旧友と交流を持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	可能な限り一緒に何かを行えるように支援を行っている。又、職員が話題を作り、自然と入居者様同士が会話しているような環境作りにも力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取らせて頂き、相談や支援を行うようにした。その際、訪問させて頂いたり経過を見ることができた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時々の方の本人様の意向を大事にし対応させて頂いている。	利用者の思いを把握するため、家庭的な環境作りをしている。寄り添いながら利用者の思いを引き出すため、職員は意識を持って会話をしている。引き出した意向は職員間で共有し実現に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントをしっかりと行い情報を得ている。その結果を職員全員が把握できるように努めている。又、入居後に得た情報に関しても同様に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に状態や過ごし方、話された内容などを記載し、全職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや面会時など必要な時以外でも日々の生活や現状をお伝えし、本人様やご家族様の意向がくみ取れるように作成させて頂いている。	3ヶ月毎にモニタリングを行い、基本的には6ヶ月毎に見直しをし、状況に合わせて介護計画の変更をしている。見直し時には利用者・家族の意見を反映するため、サービス担当者会議を開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく介護記録に残し、ミーティングなどを通じて全員が情報を共有し介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アンケートにてご家族様・ご本人様が望まれる要望に対し、可能な限り対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで情報を知り、地域の行事などに参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の意向を尊重し対応させて頂いている。かかりつけ医には必ず情報提供を行うなどし、適切な診療が受けられるように支援を行っている。	母体の病院が同一建物内にあり、全員がかかりつけ医として母体病院を選択し、24時間の連携がある。家族からも「健康面では安心」との言葉がある。専門医の受診には、介護タクシーを利用している利用者がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療従事者とは何時でも連絡・報告・相談が出来る体制となっている。些細な事で相談ができ、助言を得ながら日々のケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には診療情報提供書と介護サマリーを提供するようにしている。逆に退院時には看護サマリーなどを頂くようにしており、ご入居様が安心して介護と医療が受けられるようにしている。必要に応じては病院に行き情報収集も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に予め重度化及び看取りの対応について説明を行い意向を確認している。又、医師より終末期と診断された時に、話し合いの場を持ち、再度説明と移行の確認を行っている。	入居時「重度化指針」を説明している。医療的ケアがない場合、利用者・家族の意向に沿ってホームでの看取りを行い、今年度1名の看取り事例がある。看取り場面では、家族・医療関係者・ホームと話し合いを重ね、家族の泊まり希望にも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等を通じて対応方法の確認を行ったり、岩倉消防署の協力の元、救命講習を実施し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に沿い避難訓練を実施している。又、岩倉消防署の協力も得て機器の取り扱いの説明や避難誘導の助言等も頂き、全職員が周知できるようにしている。	年2回の避難訓練(夜間想定含)の内1回は消防署立ち合いで、通報・初期消火・避難訓練を実施している。階段を車いすで降りたり、職員2人で抱え移動したりと、様々な体験をした後振り返りを行っている。	夜間の災害発生には地域の協力が不可欠であり、運営推進会議の議題として取り上げ、地域の具体的な協力体制、役割等を築くための働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を職員一人一人が把握し人生の大先輩として敬意を持ち対応させて頂いている。	声掛けの基本は「さん」付けし、本人希望の呼称もある。トイレの戸を閉めたり、入浴時にタオルを掛ける等、羞恥心やプライバシーに配慮している。「自分に置き換え、利用者の嫌なことはしない」を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方向的に判断する事のないよう心掛けながら業務にあたっている。開かれた質問と閉じられた質問を使い分けながらコミュニケーションを図るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、ご入居者様に合わせ支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が一方向的にならないようにしている。衣服の選択や整容など出来る方は自身で行って頂けるように環境を作り、出来ない方はコミュニケーションを図りながら一緒に行うなどし、その人らしい生活が送れるように支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては職員が中心となっているが、その他(準備や盛り付け、片付けなど)に関しては入居者様で手分けをしながら行って頂いている。メニューに関しても、日常会話から出た物に変更するなどし、その時々のお気持ちを大事にしている。	食事場面が、利用者が「力」を発揮する機会であることを職員は理解しており、炊飯器の場所を変える等、利用者が動きやすい環境作りに努めている。男女問わず調理場面に参加しており、家庭的な雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が摂取状況を把握し、誤嚥の不安や摂取量が少ない時などは歯科衛生士や看護師と相談するようにしている。その結果を本人様やご家族様にお話しそれぞれに合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者には訪問歯科(協力歯科医)を受けて頂いている。現在は導入前と比較し、口腔衛生に関する意欲は高まり自主的に歯磨きをする方が増えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを利用し排泄パターンを理解し声掛けなどを行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、定時誘導の他、利用者に合わせた声掛けや誘導をしている。夜間の誘導は寝息が聞こえる時は起こさず、眠りが浅い時に誘導しており、できるだけ熟睡時間を確保している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良いとされている食材を意識し提供するようにしている。又、水分摂取量や運動量なども個々の生活習慣を見ながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯に関しては午前のみでしか対応できていないのが現在の課題点である。だが、日曜日以外に入れる環境にしている為、毎日の入浴サービスを提供する事は可能となっている。	日曜日以外、毎日の入浴が可能で、概ね2日毎の入浴機会があるが、毎日入る利用者もいる。安全面に不安のある利用者は、階下のデイケアセンターの機械浴を使い、湯船の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないように注意し個々のペースで自由に対応させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を介護記録に入れ職員全員が把握出来るようにしている。又、状態に変化があった場合や不安な時は直ぐに連絡を取れる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の習慣や嗜好品を入居時にアンケートを取って希望が取り入れるように対応している。また個別の役割が出来るようにコミュニケーションなどを取り支援させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての要望に応えきれていないが、可能な限り計画を立て戸外に出掛けられるように支援をしている。	利用者の自立度が増えたことにより、突発的な外出頻度が増えている。日常的には近隣の散歩や食材の買い物があり、いきいきサロンの参加等、地域の人達と交流がある。全員で出掛ける外食や遠足(花見・いちご狩り等)があり、利用者も楽しみにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は(ご家族様にご理解の元)お持ち頂いております。難しくなった場合でも、一緒に管理するようにしており、その都度必要な支援をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に対し連絡を取りたいと申し出があった場合は電話をお貸しするようにしている。それ以外に関しては、ご家族様代表の方に確認を取るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い刺激にならないように気を付け、行事で撮影した写真や季節ごとの飾り付けを行っている。音、光、温度などはコミュニケーションを図りながら適切な対応を行うようにしている。	適温で清潔なリビング・廊下にはソファが置かれ、穏やかな空間になっている。調査日も、昼食後のひと時をソファに横になりうたた寝をする利用者、仲よし利用者がリビングで話しており、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が弾む方、気の合わない方、移動が難しい方、気に入った場所がある方、それぞれの日常生活や認知症状を見ながら臨機応変に対応するように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関してはご本人様とご家族様、職員とで話し合っ部屋作り(配置や写真等の飾り)を行っている。使い慣れた物もお持ち頂いたりし、本人様が安心して生活が送れるように配慮させて頂いている。	電動ベッド・洗面台、収納が設備されている。持ち込みは自由であるが持ち込みは少ない。テレビ・ラジオ・家族写真が持ち込まれ、利用者と一緒に掃除をして、清潔な環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字や絵も用いて対応している。		